

古墳壁画の保存活用に関する検討会（第4回）議事要旨

1. 日 時 平成22年12月24日（金）14：00～15：30
2. 場 所 文部科学省東館16F 特別会議室
3. 出席者 （委員）
永井座長、有賀副座長、河上委員、北田委員、木下委員、佐藤委員、里中委員、関委員、高鳥委員、成瀬委員、三浦委員
（協力委員）
西藤委員、舟久保委員
（事務局）
文化庁：近藤長官、関文化財部長、松村文化財鑑査官、栗原古墳壁画室長、串田記念物課長、建石古墳壁画対策調査官 ほか関係官
独立行政法人国立文化財機構：
東京文化財研究所 石崎保存修復科学センター長、川野邊副センター長 ほか関係者
奈良文化財研究所 高妻埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 ほか関係者
4. 概 要
 - （1）開会
 - （2）事務局の異動について
 - （3）文化庁長官挨拶
 - （4）議事
 - ①キトラ古墳の保存・活用について
 - ・キトラ古墳壁画の取り外しについて
キトラ古墳壁画の取り外しについて、事務局から資料2に基づき説明が行われた。
 - ・キトラ古墳壁画の取り外した漆喰部分（泥の下に十二支「辰」「巳」「申」の存在が見込まれる部分）の今後の処置方法について
キトラ古墳壁画の取り外した漆喰部分の泥の下の十二支の「辰」「巳」「申」の存在が見込まれる部分に対してX線調査を行った結果と今後の処置方法について、事務局から資料3に基づき説明が行われた。その後、事前に聴取した美術史の専門家のコメントの紹介が行われた後、以下のとおり意見交換等が行われた。
有賀副座長：表から泥を取ることや裏から漆喰を取することは技術的に難しいので、現段階では現状を保つことがベストだと考える。
佐藤委員：キトラ古墳壁画の取り外しの写真を見ると白い漆喰のようなものが見えるが、漆喰の途中の面まで剥がしたのか。床面にも漆喰はあったのか。また、X線等で調査した結果、「辰」「巳」「申」については、絵が描かれていなかったのか、科学的に見ることができないのか。
建石調査官：写真に写っている壁面・天井の白い部分はほとんどが漆喰と考えられる。床面にも漆喰が存在する。壁面・天井の壁画の取り外しは完了したが、実際には、薄皮一枚が現地に残っている。また、今回のX線調査の条件では図像の存在は確認できなかったが、これだけをもってこの部分に図像が描かれていないとは言い切れない。
成瀬委員：可搬式の蛍光X線で近辺を調査すれば、顔料などのことが分かると思う。
木下委員：分析した破片は、壁のどの位置にあったか特定できるのか。
建石調査官：記録をとっているのので、元の記録と照合すれば、かなり正確に位置関係を特定できると思う。
北田委員：発掘調査前の写真と取り外し後の写真で倍率が違うように見受けられるので、経

時的な変化の場合は定点観測をしっかり行うことが必要である。

河上委員：キトラ古墳の床面の調査はいつ頃を予定しているのか。

建石調査官：当初、再来年度に予定していたが、来年度実施する方向で調整している。

永井座長：今後の技術的・科学的発展を待つということも含め、現状のまま保存しつつ、可能な限りの非破壊調査は行っていくということで概ね意見が一致すると考える。今後は、壁画や古墳の保存管理について本検討会で検討を行っていきたいと考える。

②高松塚古墳の保存・活用について

・高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開について

高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開（第6回）について、事務局から資料4に基づき説明が行われた。

③その他

・史跡造山古墳第五古墳の保存対策について

史跡造山古墳第五古墳の保存対策について、事務局から参考資料2に基づき報告が行われ、以下のとおり意見交換等が行われた。

木下委員：顔料は付着していないのか。

建石調査官：石障には顔料は認められない。石室には一部赤色顔料が残っている。

北田委員：表面が剥離しているというのは、砂岩そのものの表面が剥離しているのか。

建石調査官：砂岩の表面が剥離しており、おそらく層理に従って剥離していると考えられる。

北田委員：砂岩本体と剥離したところに変質しているのか。

建石調査官：既にクラックのようなものが入っていて、そこが剥離したというケースと、今回水を抜いた後に石材の表面が剥離したケース等が考えられる。それ以外の可能性も考えられるので、現在、調査を進めているところである。

北田委員：古墳の入り口左壁部にカビを確認し、エチルアルコールを噴霧と書かれているにもかかわらず、入り口付近の乾燥している部分でのカビについては、アルコール噴霧はしなかったのか。

建石調査官：アルコール噴霧はしている。今のところ、装飾部本体を痛めているということではなく、むしろ、現場では水環境の方を気にしている。

北田委員：カビが広がらないよう専門家と協力して対処いただきたい。

永井座長：このような劣化や剥離は、今まであまり例を見ないものなのか。今後の対応を考えたときにヒントが存在しているのか。

建石調査官：今のところ、同じような症状がどこにでもあるということではないが、現在、熊本県内の同様の石材が用いられた事例を中心に類例を検討しているところ。

木下委員：現地保存の方法をできるだけ模索してほしい。

(5) その他

事務局より、次回の日程等について連絡があった。

(6) 閉会

以 上